

〔 例題 24 〕 ヒツジとヤギの品種とその特徴に関する次の記述のうち、正しいのはどれか。

1. コリデール種は、イングランド原産の肉用のヒツジである。早肥・早熟で産肉性に優れている。現在、我が国で飼育されるヒツジのほとんどをこの品種が占める。
2. メリノ種は、ニュージーランド原産の毛肉兼用のヒツジである。毛用、肉用ともに優れている。昭和30年代まで、我が国で飼育されるヒツジの大半をこの品種が占めていた。
3. シバヤギ種は、スイス原産の代表的な乳用のヤギである。大型で、泌乳能力の改良が最も進んだ品種である。我が国では、長野県、山梨県、群馬県で多く飼育されている。
4. カシミヤ種は、中央アジア原産の毛用のヤギである。本種の柔らかい毛は絹状の光沢をもち、高価なショールや織物に加工される。チベットやモンゴルなどの高地で飼育されている。
5. ザーネン種は、長崎県で古くから飼われていた肉用のヤギである。体高50cm前後と小型である。我が国では、一部の研究機関で実験動物として飼育されている。

〔 例題 25 〕 次はいずれも、泌乳牛における生理機能に関する記述である。各記述の a～e において、 $\{ \quad \}$ 内の二つのうちから正しいものを選んでいのはどれか。

- ・吸乳あるいは搾乳の刺激により下垂体後葉から放出され、乳を排出させるホルモンは a $\left\{ \begin{array}{l} \text{オキシトシン} \\ \text{プロジェステロン} \end{array} \right\}$ である。
- ・最高乳量と総乳量との間には b $\left\{ \begin{array}{l} \text{正} \\ \text{負} \end{array} \right\}$ の相関関係がある。
- ・乳成分のうちで、乳中における変動が最も少なく、乳の分泌過程で分泌液胞内の浸透圧を一定に保つ働きをもつものは c $\left\{ \begin{array}{l} \text{乳糖} \\ \text{乳タンパク質} \end{array} \right\}$ である。
- ・乳中における乳成分の割合は季節により変動する。乳脂率及び無脂固形分率が高い季節は d $\left\{ \begin{array}{l} \text{夏季} \\ \text{冬季} \end{array} \right\}$ である。
- ・妊娠末期に乾乳すると、乾乳しない場合に比べて次の産次における総乳量は 25～40% ほど e $\left\{ \begin{array}{l} \text{多く} \\ \text{少なく} \end{array} \right\}$ なる。

1. a——プロジェステロン
2. b——負
3. c——乳糖
4. d——夏季
5. e——少なく